

平成 31年 3月 18日

浜田市議会議長 川神 裕司 様

議員名 村武 まゆみ



## 調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成30年11月16日(金)
  
2. 調査研修内容  
岡山県笠岡市において海を活かした事業を調査  
浜田市観光交流課、こくふブルーツーリズム研究会と同行
  
3. 研 修 先  
岡山県笠岡市議会  
笠岡諸島視察・・・笠岡市議会議員 妹尾博之氏
  
4. 調査経費 10,000円  
交通費 10,000円(経費内訳 笠岡諸島水上タクシー)  
(浜田、笠岡間は浜田市公用車を利用のため経費不要)
  
5. 調査研究活動の概要

別紙のとおり



## 【視察研修の概要】

### 1、笠岡市議会

#### (1) 日本遺産についてに向けた取り組みについて

##### ①テーマ【瀬戸内海の「石の島」】

笠岡市が申請主体となり、シリアル型（複数の市町村にまたがってストーリーが展開）で丸亀市、土庄町、小豆島町の2市2町で、H30年1月頃申請したが、残念ながら認定されなかったため、H30年10月に「備讃諸島日本遺産認定推進協議会」を設立し、再申請する予定。

江戸時代の石丁場跡（小豆島）、天然の奇岩・鎧岩（白石島）、近代から現代の石丁場（北木島）などがあり、石の資料館、体験型マリンスポーツなどを展開している。

##### ②テーマ【神武東遷】

宮崎県宮崎市が申請主体となり、シリアル型で奈良県橿原市他17市町村で申請予定。H30年10月日本遺産推進協議会準備会を設立し、神武天皇の旅路でつなぐ縁をストーリーとする。

神武天皇が東征の途上「吉備の高島宮」に数年滞在したと『古事記』『日本書紀』に記されており、笠岡市高島宮がその島であると考えられた。島内には伝説が多く残っている。

申請に向けて動いているが、壁は厚く、市民の力が必要であると考えられている。

#### (2) 笠岡市におけるブルーツーリズム、海の駅など、海にかかわる事業について（行政の関わり方）

##### ●美しく豊かな海づくりに関する協定書を締結

笠岡地区漁業連絡協議会（大島美の浜漁協・笠岡市漁協）、豊かな海づくり協働会（幹事：生活協同組合おかやまコープ・天野産業株式会社）、NPO里海づくり研究会議、笠岡市、岡山県

各団体が連携し、アマモ場再生、稚魚放流、海ごみ回収等の活動を行い、笠岡市の美しく豊かな海づくりを推進。

##### ●笠岡諸島「食と農村」交流促進ビジョン

島外の仲間を募り、よそ者の視点を踏まえて、笠岡諸島の人や資源を見つめなお

し、今後の島の在り方を考えてきた。

交流をするだけでなく、「カタチ」にしていくことを目指す。

- ・ 地域協議会の開催とビジョン策定

- 1、「島だからこそできる体験」の発掘と磨き上げ
- 2、地域商社てきな人材・機能の確保
- 3、多様な形での島の担い手の確保と育成
- 4、島での交流機会と島からの情報発信
- 5、訪れやすく、過ごしやすい環境づくり

- ・ ビジョン推進LAB

- 1、大学生インターンシップ事業、いかさ田舎カレッジ→地域の若者との地域連携をし、島の人材育成の場
- 2、かさおかみなとマルシェ
- 3、真鍋島移住者が奮起→交流施設、給食サービス、ゲストハウス、カフェ

## 2、笠岡諸島視察・・・案内：笠岡市議会議員 妹尾博之氏

水上タクシーで笠岡諸島を巡り、真鍋島に上陸し、笠岡市議会で聞いた交流施設、ゲストハウス、カフェを見学。





## ○所感

笠岡市は島がおおくあり、海とのつながりは強い。海のことを考えるのが当然とし、特に海を特化してという意識はないということだった。島の衰退を立て直すために、人材育成に力をいれ、18年前から大学生との交流をしたことがきっかけになり、新たなカタチができてきたのだと感じた。

そういう活動から海に関係する団体が集まり「美しく豊かな海づくりに関する協定書」を締結したことに繋がったと感じた。市全体で海のことを考えていけることがうらやましいと感じた。浜田市でもぜひ美しい海を守る活動をしていきたい。